

KYOTO AYABE SHODANI AtoZ

しうだに

水源の里・瀬尾谷 AtoZ



水源の里・瀬尾谷 AtoZ

発行日 2022年3月31日

制作 京都産業大学現代社会学部 滋野ゼミ

荒木優衣

山根優花

榎本竜大

三木雅也

湯川瑠太

木戸満博

協力 水源の里・瀬尾谷

(滋野 浩毅(京都産業大学現代社会学部教授))

塙見 直紀(半農半X研究所代表、総務省地域力創造アドバイザー)

水田 ウタコ

発行 あやべ水源の里連絡協議会

(綾部市役所 定住・地域政策課 上林いきいきセンター)

京都府綾部市八津合町上荒木 5

TEL 0773-54-0095

MAIL teijyutuiki@city.ayabe.lg.jp

HP <https://suigen-ayabe.com>

あやべ水源の里

公式ホームページ



あやべ水源の里

Facebookページ



水源の里の「今」をお届け。
イベント情報や水源の里の
四季をどこよりも早くお伝えします。

message

「瀬尾谷AtoZ」は瀬尾谷の皆さんと
大学生が共に作り上げました。
また、作成にあたり、コロナ禍という大変な状況の中、
多くの方にご協力いただきました。
この場をお借りして、皆様にお礼申し上げます。

瀬尾谷は、中上林地区で最小の集落ですが、
豊かな「自然」、自慢の「お米」、伝統の「黒瓜」…
語り出したら止まらない、そんな魅力がぎゅっと
詰め込まれています。

私たちは、この冊子を通して、
そんな瀬尾谷の誇りと想いを
お伝えできることを願っています。

about

瀬尾谷は住民同士の親交が深く、外部から来た人も
温かく迎え入れてくれます。どこを見渡しても緑に溢れ
ていて、訪れた人の心を落ち着かせてくれる場所です。

水源の里 瀬尾谷
人口 9人 5世帯
高齢化率 85.7%



春 田植えシーズンの最中に八重桜や芝桜が咲き、美しい風景が広がります。

秋 コスモスが咲き、静かな集落の中で揺れるススキの音を聞くことができます。

夏 黒瓜の収穫と粕漬けが忙しい季節。初夏から夏にかけて咲くスイレンが見られます。

冬 辺り一面に雪景色が広がり、多いときで1mほどの雪が降り積もります。

contents

A 集まり
B 文化
C コスモス
D 動物
E 移住
F 風土
G 牛頭天王
H 歴史
I Igokochi
J Jumin
K Kishiyaki
L Location
M ミニ

N 農業
O おいしいお米
P プライド
Q 静か
R 川
S 濑尾谷
T 田植え休み
U うり
V ビュー
W 輪
X キャベコン
Y 寄せ法事
Z 前進



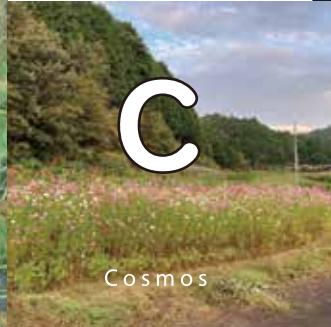
A

Atsumari



B

Bunka



C

Cosmos

瀬尾谷の人たちにとって、集合時間などあるようでないもの。住民同士の仲の良さゆえか、会議の日には30分前にはみんな集まっているという。集まりがいいとはまさにこのこと。和気あいあいとした会議の雰囲気はとても心が落ち着く。

集 ま り

瀬尾谷では、瀬尾谷粕漬の生産と、材料となる黒瓜の栽培がおこなわれている。地域住民全員が、他の地域ではあまり見られない黒瓜の栽培と、独自の製法で粕漬の生産を協力しておこなう。もともとは正月などで客人に振舞う高級食であった、瀬尾谷特有の文化である。

集落の入り口に植えられたコスモスは、瀬尾谷の茶色い秋の風景に色を添えている。市の補助金事業としてスタートし、住民が管理している。まだまだ小さい花畠だが、今後も規模を拡大させていく予定だ。今年も訪れる人を出迎えてくれることだろう。

コ ス モ ス



D

Doubutsu

瀬尾谷が誇る美しい **動物** 大自然にはたくさんの野生動物、サルやシカやイノシシが暮らし、空を見上げると白鶲やオニヤンマが気持ちよさそうに飛んでいる姿を見ることが出来るだろう。しかし一方で、野生動物たちが農作物を荒らしてしまうため、村の2人の猟師がシカを駆除したり獣害対策の檻の設置をするといった対策がなされている。



E

Emigration

瀬尾谷の住民は必ずしも、瀬尾谷の土地で生まれ育ったわけではない。もちろん昔から瀬尾谷で育つ人もいれば、移住してきた人もいる。そんな外部の人から見ても、瀬尾谷は移住してくる価値のある魅力が溢れている。



F

Fudo

瀬尾谷の風土として特に注目したいのが景色である。集落は山に囲まれているが、この山は昭和25年頃に木材として伐採された後、スギ・ヒノキが植林され、美しい景観を生み出している。集落内は自然にあふれており、見ているだけで心が癒されていく。



G

Gyuto tennou

瀬尾谷公会堂の目の前には、大山の神宮(山の神)と牛頭天王の二社の小さな祠がある。瀬尾谷では、牛引きのために牛が育てられていたこともあり、牛頭天王を祀っている。土起こしの際には、瀬尾谷内外から参詣者がきたそうだ。



H

History

石塔に「元禄」と書かれていることから少なくとも瀬尾谷の集落は元禄時代(1688~1704年)よりも前にできていたとされる。近くにお城が築かれていたので、その城を中心として集落が形成されたという。周辺には城跡がいくつかあり、当時の名残をとどめている。

I

Igokochi

言うまでもなく、自然豊かな環境に囲まれ、四季折々の景色を直接感じることができるのは瀬尾谷ならでは。静かな環境は、さらに良い居心地へつながっている。住民同士の繋がりを鑑みると、まさに理想の生活になつているだろう。

居ごこち



J

Jumin



K

Kishiyaki



L

Location



M

Mini



N

Nogyo



O

Oishii okome

現在、瀬尾谷には9人
住民
5世帯の方が暮らして
いる。これだけを聞く
と、寂れているのでは、
と感じるかもしれない
が、綾部市の中心部、
あるいは綾部市外との
二拠点居住者がおり、
数値では見られない
賑わいがある。瀬尾谷
の地域行事には、携わ
る人々全員が積極的に
参加している。

集落では、秋から冬
にかけてスキーが非
常に多く生えてくる。
これでは景観を損ね
るだけでなく、イノシ
シやシカなどの獣の
隠れ場所になってしま
う。そこで行われる
のが「岸焼き」だ。3月
の終わり頃に、スス
キを燃やすことで住
民の負担を最小限に
除草ができる。その
光景は瀬尾谷の冬の
風物詩だ。

**岸
焼
き**

綾部市東部の中上林
地区に流れる上林川
の中流に、瀬尾谷の集
落がある。バス停も近
く、綾部の中心部から
もアクセスが良い。近
くには小学校や市役
所の出先機関もあり、
とても住みやすい。ま
たここには慶応4年に
起こった鳥羽・伏見の
戦いで福井小浜藩の
落ち武者が帰藩の際
に通ったとされる京都
へ続く大栗峠の道が
今でも残っている。

**ロケーショ
ン**

瀬尾谷は25集落ある
中上林地区の中で最
も小さい集落である。
集落は徒歩であつとい
う間に一周できるほど
小さいが、それゆえに
住民同士の距離が近
く、仲が非常に良い。こ
のことが瀬尾谷を活気
ある集落にしている理
由の一つなのだ。

**ミ
ニ**

この後に登場する黒瓜
やお米と野菜の栽培が
ここで行われている。猛
暑の中での黒瓜の収穫
や、害獣による農作物
の被害、近年の不安定
な気候などの困難が降
りかかるが、それらを地
域の人々や学生たちが
助け合って乗り越える
からこそ、瀬尾谷の誇り
である黒瓜やお米が立
派に育つのである。

瀬尾谷の人たちが普
段食べているお米は
とてもおいしい。その
理由は、上林のきれ
いな水の恵みと丹精
込めて作られている
から。瀬尾谷のお米
を炊いたごはんと黒
瓜の粕漬けとの相性
は抜群で、この上な
いおいしさ。

**おい
しい
お
米**



P

Pride



Q

Quiet



R

River



瀬尾谷の住民の方は、良い意味で強いプライドを持っている人が多い。それは、大自然に囲まれ、冬には大雪が降るという環境で育ったため、粘り強く負けず嫌いな性格になるからだという。瀬尾谷の人といえば仕事熱心な人が多い、というイメージがついている。

プライド

三方を山に囲まれ、また街道筋からも離れ、家屋も少なく、田畠の多い瀬尾谷。聞こえてくる音は、木々のざわめきや、鳥獣、あるいは虫の鳴き声。人々の活動で鳴る音は、6時に鳴るお寺の鐘の音、11時30分と17時に鳴る定時のサイレン。ここ瀬尾谷は、とても静かである。

静か

～上林を育んだ豊かな水流 上林川～ 綾部市東部を貫き、集落の入り口で私たちを出迎えてくれる上林川。かつては、ウナギ、アユ、さらには天然記念物であるオオサンショウウオが見られた。春には桜、冬は雪景色と、季節によってさまざまな顔を見せ、それが瀬尾谷の美しい田舎風景の一翼を担っている。

川



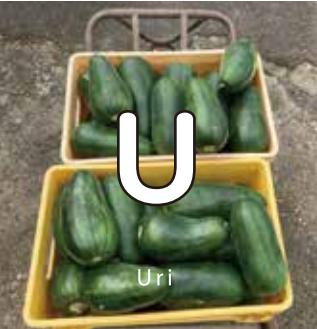
S

Shodani



T

Taueyasumi



U

Uri

初めてこの集落名を見た人は「せおたに」「せおだに」と呼んでしまいがちだが、正しくは「しょうだに」であることをまずは知つて欲しい。昔の住民は「せおたに」と読んでいたようだが、いつからかだんだんと住民の中で読み方が変わっていき、今では「しょうだに」の呼び名で親しまれている。

瀬尾谷

「田植え休み」とは、田植えを終えてお疲れ様という意味を込めて、瀬尾谷で毎年行われている慰労会のこと。かつては集落で一斉に田植えをしていたが、それぞれの家で田植えをするようになった現在でも、みんなで集まって慰労会を開き、お互いをねぎらっている。

瀬尾谷には、昔から各家で黒瓜の種が受け継がれてきた。黒瓜は、キュウリと白瓜の間ぐらいいの食感で、子どもから高齢の方まで食べやすい。そんな瀬尾谷に代々伝わる黒瓜を使い、集落が一丸となって作ったのが瀬尾谷粕漬である。酒粕漬けを複数回行うことによって生み出される深みのある味は絶品である。瀬尾谷粕漬は、あやべ温泉やあやべ特産館などで販売されている他、ふるさと納税の返礼品にもなっているので、ぜひ調べてみて。





V

View

比較的高い場所に位置する集落の奥に入り、ふと振り返ると、集落全体を見渡せる。春には様々な彩りの花が咲き誇り、夏には清らかな万葉で埋め尽くされ、秋にはたくさんのススキが秋風に揺られて、冬には辺り一面が雪で覆い尽くされた銀世界が広がり、四季折々の景色をここから望むことができる。さらに現在はコスモス、スイレンの栽培に挑戦中。まさにビュー(view)ティフルな集落だ。

W

Wa

自然、環境、特産品と、瀬尾谷の様々な魅力を紹介してきたが、集落に住む人々こそがこの集落最大の魅力であると言いたい。地元愛はどこよりも強く、集落の自豪感は尽きない。住民同士の交流も盛んで、黒瓜の粕漬け作りではみんなが集まる。住民同士の深いつながりの輪こそ、瀬尾谷の溢れる力の源なのである。



X

kyabetsu
X
daikon

根はダイコン、葉はキャベツという見た目で2種の野菜を合体させた植物、それが「キャベコン」。キャベツの根こぶ病を防ぐために作られたキャベコンは育てるにあたって接ぎ木のタイミングや温度管理が非常に難しいため成功率はかなり低い。肝心の味はというと、根は見た目通りダイコンの味、葉も見た目通りキャベツの味をする。そんな綾部で誕生した「キャベコン」を検索してみて。多数の方が挑戦していて、隠れた人気がある。

キヤベツ×ダイコン



Y

Yosehouji

一般的に法事はそれぞれの家庭でするものであり、瀬尾谷でもかつてはそうしていた。しかし「住民の人数も少ないし、みんなでやろう」ということで、いつしか住民全員が集まって行う行事に。現在は、毎年2月11日に戦没者慰霊祭も兼ねた法事をすることになっている。

寄せ法事



Z

Zenshin

前進

(瀬尾谷出身 元文部大臣 奥田幹生)

瀬尾谷の人たちは、少ない人口ながらも住民同士の深い交流・絆を軸に、集落をよりたくさんの方々に来てもらえるような魅力ある集落にすべく、前に進み続けている。瀬尾谷を盛り上げる住民たちは地元愛と希望に満ちている。四季折々の自然の豊かさ・住民の温かさに溢れる瀬尾谷にぜひとも足を運んでみてほしい。



こぼれ話

「瀬尾谷へは嫁にやるな、嫁をもらうなら瀬尾谷からもらえ」上林の在所にこんな言葉があるので幼い時からよく聞いた。それほど瀬尾谷の人はよく働く。時代は大きく変わったが、勤勉と努力の必要性は不变だと思う。瀬尾谷の人と自然は、いつ帰っても温かく迎えてくれる。都会に出ている瀬尾谷の人は、私も含めて瀬尾谷に感謝し、この良き伝統を受け継いでいかなければならぬと思つ。



瀬尾谷粕漬 (80g)



瀬尾谷粕漬 (150g)

私、
黒瓜の酒粕漬です

土用の頃元気に生まれ、塩漬け5日で酒粕と赤砂糖に包まれます。年の暮れに酒粕と赤砂糖で二度漬けされ、春から私達はお嫁に行きます。おもてなしや非常食として発揮します。老若男女が集まり楽しんで出来た瀬尾谷粕漬です。

連絡先 京都府綾部市八津合町西ケ久保16-1
代表 濑尾谷粕漬加工所 磯井 進
TEL 0773-54-0447
Email shodanijichikai@gmail.com



磯井 進
瀬尾谷自治会長
瀬尾谷粕漬加工所代表

水源の里・瀬尾谷集落は現在7戸と中上林で一番小さな自治会となっています。そのような状況の中で10年前から黒瓜の粕漬けに取り組み、現在、あやべ温泉・特産館・彩菜館・ミツマルスーパーなどで販売し、粕漬の製造は集落全員参加でがんばっております。



西山 輝治
瀬尾谷は集落として、戸数が少なく小さな自治会です。みんなが協力しあう人柄のいい人たちです。瓜漬け(しょうだに漬け)等の作業の時も一人ひとりの出来ることを行い、休み時間は、和気あいあいと長く楽しい時間となっています。また子供や孫たちも瀬尾谷のお米は美味しいと喜んで食べてくれ、毎年作り甲斐があり励みになります。綺麗な水、空気、緑豊かな瀬尾谷をこれからも大切にし、皆さんにも知って頂きたいです。



奥田 幸男
仕事、趣味に毎日一生懸命頑張って来ました。気が付けば私も61歳となり、ご近所の人々も高齢者ばかりですが、今のペースを落す事なく、さらに邁進したいと思っています。今年新たに5年後の目標を設定しました。“鹿の年間捕獲200頭”



井上 昭司
古くは良く働く自治会として知られていたが、今は菜園、写真、釣り、狩猟などの趣味で楽しんでいる。今後は関係人口の増加に努め、ひいては空き家が塞がる手立てが必要だと思う。縁部から約20km。小・中学校にも近く別荘地としてもお勧めです。一度おいで下さい。美味しい瀬尾谷の粕漬の試食ができるかもしれません。



磯井 寛
瀬尾谷では、農地水、中山間そして水源の里等の取り組みで、多額の補助金を受け地域活性化を図っています。その中でも黒瓜の粕漬は集落の皆が集まる取組であり、特に休憩のコーヒータイムは楽しみです。



滋野 浩毅
京都産業大学教員

瀬尾谷は、これまで「黒瓜の粕漬」(ファンです!)で名前を聞くだけでしたが、今回ようやく「AtoZ」作成のために伺うことができました。今年もコロナ禍で訪問できる回数は限られましたが、今後とも末長くお付き合いよろしくお願ひいたします。



木戸 満博
新型コロナウイルスの影響で、現地へ訪問できたのは2回だけでしたが、その2回とオンライン会議で瀬尾谷の環境や住民の方々の温かさなどといった魅力を数多く学べました。この冊子を通して、水源の里瀬尾谷の魅力を伝えられたらと思います。



山根 優花
コロナ禍で現地調査ができる回数は限られていましたが、そういった状況の中でも瀬尾谷に訪問した際には、住民の方が気軽に接してくださって、とても居心地の良いところだと感じました。私たちが感じた集落の魅力が冊子を通して少しでも伝われば幸いです。



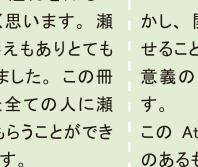
荒木 優衣
コロナ禍でなかなか頻繁に現地に赴くことはできませんでしたが瀬尾谷の方々の温かいお力添えで瀬尾谷の魅力をたくさん知り、このような素敵な冊子を完成することができました。この冊子を通して多くの方々に瀬尾谷の温かさやエネルギーを感じていただければと思います。



三木 雅也
今回の瀬尾谷 AtoZ 作成にあたって現地へ調査に伺う機会は決して多かったとは言えないですが、その少ない機会の中でも瀬尾谷の住民同士における仲の良さや団結力が伝わってきてとても魅力に感じました。この冊子を通して一人でも多くの方に瀬尾谷の良さを感じ取っていただけたらいいなと思います。



湯川 瑞太
今回はこの冊子を作成するにあたって瀬尾谷という地域に寄り添い魅力を知ることででき非常に嬉しく思います。瀬尾谷の人たちの力添えもありとても良いものに仕上りました。この冊子を読んでくださった全ての人に瀬尾谷の良さを知ってもらうことができることを光栄に思います。



榎本 竜大
今年の AtoZ 作りは、感染症予防を徹底した困難な状況での実施となりました。しかし、関係者全員の力を借りて完成させることができたのは私にとって非常に意義のある経験であったと思っています。この AtoZ も瀬尾谷にとって何か意義のあるものになっていれば幸いです。